

令和 7 年（2025 年）3 月 27 日

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市国民健康保険運営協議会

会長 柏木 武彦

令和 6 年（2024 年）2 月 1 日開催の令和 5 年度小田原市国民健康保険運営協議会第 4 回協議会の概要を次のとおり報告します。

1 日 時 令和 6 年 2 月 1 日（木）午後 2 時 30 分から午後 3 時 50 分まで

2 場 所 小田原市役所 6 階 6 0 1 会議室

3 出席者 委 員 田中 由美子

〃 杉浦 史朗

〃 西山 節子

〃 曾根 秀明

〃 漆畑 俊哉

〃 岡田 健

〃 小川 恭弘

〃 柏木 武彦（会長）

〃 鈴木 靖隆

事務局 福祉健康部長 鈴木 裕一

〃 福祉健康部副部長 吉田 文幸

〃 保険課長 齊藤 泉

〃 保険課副課長 横山 浩史

〃 保険課国民健康保険係長 久保 賢太郎

〃 保険課保険料係長 釵持 学

〃 保険課主査 塩崎 誠

説明員 健康づくり課担当課長 井澤 由美子

〃 健康づくり課成人保健係長 道野 ゆみ子

	説明員	健康づくり課主任	鈴木 創
	〃	健康づくり課主事	岩山 俊幸
欠席者	委 員	湯川 増夫	
	〃	鈴木 正彦	
	〃	川越 三洋	
	〃	長谷川 嘉春（副会長）	
傍聴者	なし		

4 議題

（１）協議事項

協議第５号	小田原市国民健康保険条例の一部を改正する条例（案）について
協議第６号	令和５年度小田原市国民健康保険事業特別会計補正予算（案）について
協議第７号	令和５年度小田原市国民健康保険診療施設事業特別会計補正予算（案）について
協議第８号	令和６年度小田原市国民健康保険事業特別会計当初予算（案）について
協議第９号	令和６年度小田原市国民健康保険診療施設事業特別会計当初予算（案）について

（２）その他

片浦診療所のあり方に係る検討について
第３期データヘルス計画の策定について

5 会議の概要

1 議題

（１）協議事項

- ・協議第５号 小田原市国民健康保険条例の一部を改正する条例（案）について

説 明 （事務局から資料１に基づき説明）

質疑等

委員

資料２ページの表・被保険者数１人、軽減割合２割の改正後の欄について、表記が９７５，００００円となっているが、９７５，０００円の誤りでということでしょうか。

事務局

９７５，０００が正しい。

協議第５号について、原案どおり承認された。

- ・協議第 6 号 令和 5 年度小田原市国民健康保険事業特別会計補正予算（案）について

説 明 （事務局から資料 2 に基づき説明）

質疑等 なし

協議第 6 号について、原案どおり承認された。

- ・協議第 7 号 令和 5 年度小田原市国民健康保険診療施設事業特別会計補正予算（案）について

説 明 （事務局から資料 3 に基づき説明）

質疑等 なし

協議第 7 号について、原案どおり承認された。

- ・協議第 8 号 令和 6 年度小田原市国民健康保険事業特別会計当初予算（案）について

説 明 （事務局から資料 4 に基づき説明）

質疑等 なし

協議第 8 号について、原案どおり承認された。

- ・協議第 9 号 令和 6 年度小田原市国民健康保険診療施設事業特別会計当初予算（案）について

説 明 （事務局から資料 5 に基づき説明）

質疑等

委員

資料 1 ページ基礎資料について、受診者数見込は減少しているのに、診療報酬収入見込は減少していないのはなぜか。

事務局

受診者数は毎年減少傾向であるが、診療報酬収入は受診者数ほど減少していないため、5 年度見込と同額を見込んでいるものである。

委員

受診者数について、令和 3 年度を 100 としたときに、令和 4 年度は 93%、令和 5 年度は 94%、令和 6 年度は 92%と減っており、試算すると令和 7 年度は 8.1 人、令和 8 年度は 7.2 人、令和 9 年度は 6.8 人、令和 10 年度は 6.3 人、

令和 20 年度は 2.7 人になる見込みであり、こちらは無災害の場合のため、災害があるとさらに致命的な状態になる恐れがある。また片浦診療所のあり方の部分で、BCP がどうなっているか、持続可能な医療がどこにあるか等議論していないため今後が見えてこない。

事務局

地域医療振興協会様のデータはあるが、将来的な見込みは難しい部分があるため、今後の検討の中で踏まえて資料等事務局からお示しできればと思う。

協議第 9 号について、原案どおり承認された。

(2) その他

- ・片浦診療所のあり方に係る検討について

講 演 「片浦地区の医療環境に関する調査分析結果報告書」の解説

講師 公益社団法人地域医療振興協会 岡本靖氏、嶋田雅子氏

説 明 （事務局から今後の進め方について説明）

質疑等

委員

今後の進め方について、これまでの分析結果のまとめから、住民の通いやすい医療施設として必要性はあるが、経営面から高齢化等問題があり、駐車場を有する介護施設も作っていく等様々な検討が必要である。

また医療従事者や地域住民を交えた意見交換が必要と考える。片浦地区の不健康さを露呈させ、何を議論したらよいか検討してあり方を進めるとよいのでは。

事務局

地域医療振興協会様に一定の分析結果をいただいているが、こちらが全ての答えではなく、地域住民のお声をまだ伺っていないため、今後その内容を踏まえた議論をしていければと思う。

- ・第 3 期データヘルス計画の策定について

説 明 （説明員から資料 7 に基づき説明）

質疑等

委員

今年の12月に健康保険証が廃止となるが、今回の計画の中で特定健診の結果や保健指導の内容がマイナ保険証に紐づいて医療機関で使用されることは重要な要素であり、小田原市でどれぐらいのマイナ保険証の利用率があるか。全体数がわかると保険医療機関でどこを目指せばいいかわかりやすくなる。

事務局

令和5年7月の時点で、小田原市民の約5割が保険証の紐づけ登録をしている。実際に医療機関で使用している市独自のデータはない。利用率については一桁ほどと思われるが、具体的な数字は現状お示しできない。

委員

保険薬局においても、概ね5から6%ほどの推移と思われるが、次年度からマイナ保険証に関して国から補助金が出る等現場での働きかけが強くなるゆえに、全体像がわかるとどの年齢層へ声掛けするかがわかりやすくなるため、現状の数値はあるとよい。

委員

特定健康診断の受診率向上について、バリウムを飲むと体調を崩すことがあり、このようなことがあると健診を受けたくなくなる等あるため、健診を受けない方に対して連絡や勧奨等必要だが、受けたくない理由を分析し、それに対する取り組みがデータヘルス計画に含まれているか。また健康診断で健康を判断する閾値があると思うが、肥満や血圧等一律に基準を設けると個人差が出てしまうと思われるが、この点についてデータヘルス計画でどう考慮されているか

事務局

平成20年度から小田原市民へアンケートを実施しており、市民から忙しいといった声が多く、また近年では日曜日に小田原市内の医療機関で行う健診をベースにするとともに年2回集団健診も日曜日に実施し、初めて健診を受ける年齢の方は無料で行っている。さらに社会保険から国民健康保険へ切り替わった方へ勧奨する等医師会と協議して改善を図っている。忙しいと回答する方にいかに来ていただくか、また知っていただかないと次につながらないため一般的な普及啓発をしている。

委員

アンケートの中で忙しいと回答した方の比率はどれぐらいか。

事務局

令和4年度に実施した集団健診のアンケートの中で、「健診を受けることが面倒だった」と回答した方が15.1%、「医療機関の診療時間内に受けることができない」と回答した方が11%、「定期的に通院しているため必要ない」と回答した方が11%、「健康であり必要ない」と回答した方が9.6%であった。

委員

忙しいことが理由の方が20%代であり、約3/4はそれ以外の理由で健診を受けていないため、そのようなところで分析してはどうか。

事務局

令和3年度に市民3,000人を対象としたアンケートを実施しており、その中で健診を受けない理由を伺ったところ、忙しくて時間が無い、費用がかかる、検査が怖い等回答があり、小田原市としてはこのような意見を踏まえ様々な取り組みをしている。健診が怖いといった方に対しては受診勧奨の際に、保健師から電話にて健診の重要性を伝えたことで、平成28年度は10.9%から令和3年度には5.1%と下がっており、これ以外の数値も減少傾向にある。

閾値については、特定健診は国で定められた基準値を用いて判定することが決まっており、一度は用いるが健診の結果医療行為が必要となった場合に、ガイドラインが出ているため、かかりつけ医にかかる際は健診の結果をもってその方にあった治療やアドバイス等いただき健康管理に活かしていただくことを考えている。

委員

一次健診で閾値を超えた場合に二次健診に移行するが、二次健診に行くことが大変であり、自身は行きたくない気持ちになるためそういった点を考慮いただきたい。

事務局

医療について段階を踏む必要はあるが、特定保健指導については健診結果の説明の際に、そのまま保健指導を受ける環境があると、実施率が上がるため、医師会と協議し取り扱い医療機関を増やす等努力を続ける。特定保健指導を受けると体重や腹囲等減少し、それに伴い運動習慣がつく、また血圧が下がる等効果がみられる方も一定数いるためこういった環境づくりを心掛けていく。

以上